

「認知症」早期発見のめやす

日々の暮らしの中で、認知症の始まりではないかと思われる言動を、「家族の会」の会員の経験からまとめたものです。医学的な診断基準ではありませんが、暮らしの中での目安として参考にしてください。

(出典/公益社団法人認知症の人と家族の会作成)

物の忘れがひどい

- 切ったばかりの、電話の相手の名前を忘れる
- 同じことを何度も言う・聞く・する
- いつも探しものをしている
- 財布・通帳・衣類などを盗まれたと人を疑う

人柄が変わる

- 些細なことで怒りっぽくなった
- 周りへの気づかいがなくなり頑固になった
- 自分の失敗を人のせいにする
- 「この頃様子がおかしい」と周囲から言われた

判断力・理解力が衰える

- 料理・片付け・計算・運転などのミスが増えた
- 新しいことが覚えられない
- 話のつじつまが合わない
- テレビ番組の内容が理解できなくなった

不安感が強い

- ひとりになると怖がったり寂しがったりする
- 外出時、持ち物を何度も確かめる
- 「頭が変になった」と本人が訴える

時間・場所がわからない

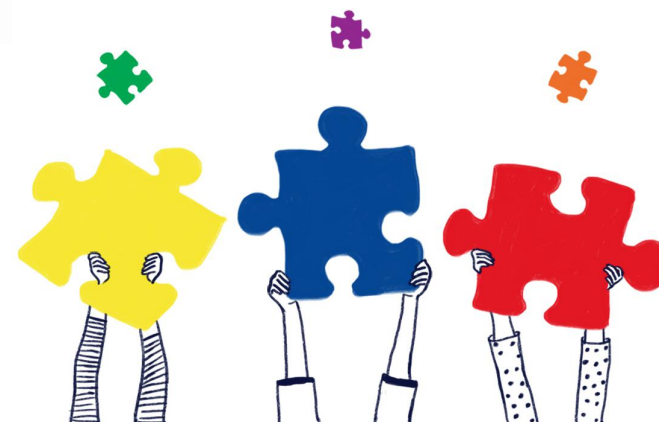
- 約束の日時や場所を間違えるようになった
- 慣れた道でも迷うことがある

意欲がなくなる

- 下着を替えずに、身だしなみに構わなくなった
- 趣味や好きなテレビ番組に興味を示さなくなった
- ふさぎ込んで何をすることも億劫がり嫌がる

※島原地域広域市町村圏組合 認知症ケアパスより抜粋

このような症状や
その他
気になるようなことが
ありましたら
お気軽にご連絡ください



わたしたちは 医療・福祉の多職種で
支援しています